



発行所/青山同窓会
 〒951 新潟市関屋下川原町2-635
 新潟県立新潟高等学校内
 TEL025-266-2131
 編集、発行人/上村光司
 印刷所/オリオン印刷機
 〒950 新潟市南出来島1-19-1
 TEL025-283-2151
 FAX025-283-3804

ごあいさつ

青山同窓会々長 37回 鈴木正二



それぞれのお立場で、母校発
 展の為に力ぞえ下さいます
 ようお願いいたします。
 年一度、ホテル新潟にて
 の総会には多数お誘い合わせ
 てご参加下さり一層会員相互

皆様あけましておめでと
 ございます。
 皆様は激動の年として、い
 ろいろありましたようですが
 会員の皆様にはお元気で活
 躍あったこととお喜び申し上
 げます。本年もひきつづき、
 各方面で益々活躍されます
 ようお祈り致します。幸い日
 本の景気の動向もいぜん好調
 を持続しておりますようでは
 ありません。

同窓会も、一九九二年(平
 成四年)の母校創立百周年に
 向けて、具体的な記念事業が
 進められることとなりますが、
 同窓各位におかれましては、



青山同窓会総会

平成元年度、青山同窓会総
 会は、昨年にひきつづき、ホ
 テル新潟を会場に、七月二十
 日(木)に開催されました。

一同顔を合せる事ができる
 ので好評で、さしもの大宴会
 場もぎっしり超満員でありま
 した。例年お元気で話をされ
 る君健男知事が、お亡くなり
 になり、一抹のさびしさを感じ
 じたのですが、金子新知事
 のもとで、副知事を務められ
 る厚地武氏51回の紹介とごあ
 いさつがありました。



東京青山同窓会総会

幹事長 (52回) 豊岡富栄

東京青山同窓会では、平成
 元年度総会を十一月七日に大
 手町サンケイホールに於て開
 催した。新潟本部より、鈴木
 正二会長、宮地正樹校長、栃
 倉校内幹事他一名が上京して
 参加された。出席者は齊藤伸
 雄(44回)会長以下一七〇名、
 懇親会では最長老佐藤若男
 (33回)氏による乾杯、アト
 ラクションでは先輩より多数

東京大学名誉教授
 第33回野口英世記念医学賞受賞

- 栗林貞一氏(59回)
- 日本航空(株)常勤顧問
- 〇五月九日新人歓迎会
- 新人歓迎挨拶
- 阿尻威吾(55回)
- (株)Y・T・B エステート
- 〇九月十九日 第二回講演会
- 坂野上啓氏(51回)
- (株)中央信託社長
- 塩見戒三氏(56回)
- 産経新聞論説委員

明治25年創立の本校は来る
 平成4年に輪百年を重なる事
 になります。昭和62年百周年
 のための校内準備会を発足さ
 せ、翌年予備的な試案を得ま
 した。まず同窓会・PTAと
 準備委員会を設けること、ま
 た記念事業として記念誌発行・
 同窓会名簿改訂・校舎改築の
 請願その他、記念行事として
 式典・祝賀会・文化行事の実
 施であります。

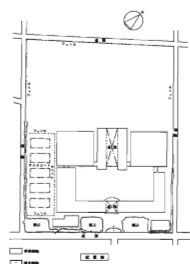
当局のご意向・ご計画による
 ものではあります。昭和29
 年の火災後直ちに建てられた
 現校舎は老朽化しております。
 県内初の鉄筋構造でもあり、
 また新潟大地震によって甚大
 な被害を受けておりますので、
 百周年を機会に何とか教育環
 境の整備・充実のため、改築
 の道が開けるよう請願してい
 るのであります。

創立百周年について

準備会総務

59回 関根彰圓

この陳情等について釧田県
 議・吉田県議また栗林前海上
 保安庁長官など同窓関係各位
 のお力添えを賜りましたこと
 誌面をかりてお礼申し上げます。
 今後とも宜しくご助力の
 程お願いする次第であります。
 以上百周年関係の進展につい
 てお知らせ致します。



猪口孝東大教授(70回卒)

母校で講演

昨秋、菊花香り始める頃である十月二十七日午後、猪口孝東大東洋文化研究所教授が母校に来られ講演されました。

同教授は、新潟高校卒業後東大教養学部に進まれ、マサチューセッツ工科大で政治学博士の学位を授与され、上智大学助教授(国際政治学)であり、青山卒業生がゼミ等で夫人の教えを受けている。現職に至っています。

青山出身の著名人の話を母



ご専門は国際政治学で、「社会科学入門」(中公新書)をはじめ、多数の専門的著書を出されている現在広く知られ

教授は講演で、「その場限りではなく、ずっと先の事も考えながら、チャレンジ精神をもって、新潟を離れて何かをやりたい。特に将来新潟の中で、あるいは新潟のために何かをやりたい人は、そうして欲しい。そして人生設計をどうしたらよいか考える時に、人生は半世紀と踏まえて、リスクが伴うが余り小さなことを気にしないで、大いにチャレンジして欲しい。」と述べられ、いかにも若いころ自分の殻を抜けて、世界各地で活躍された人の言葉らしく、生徒たちに感銘を与えました。

なお、母校図書館に同教授からご自身の著書を多数寄贈していただきました。ここで

年頭随想

☆歴史に残る平成元年が幕を閉じ、二十一世紀を窺う一九九〇年代も一年目を迎えた。☆昨年の新春に、昭和天皇崩御という国民的弔事で一体これからどうなるのかと日々テレビ、新聞に私たちの目が釘づけにされた日々が鮮烈に甦ってくる。

現人神として、また象徴天皇としてそれぞれの時代をいろいろな出来事に関わって苦悩して生きて来られたことに思いを馳せると、戦争を体験しない世代の人たちの胸にも迫るものがある。

そして元号は昭和から平成へ。意味するところから極めて良き元号として歓迎され、物事は平に成って欲しいと新元号に期待を寄せた向きも多かったはずである。しかし思い返せば昭和天皇がなくなり改元がなされたという出来事が何かしら激動の一年を暗示していたのかも知れない。昨年

は、本当に歴史的な出来事が日本の内外ともに起きた一年であった。

☆昨年の出来事で何が一番印象に残るかを私の家族にたずねてみた。妻は消費税導入と言い、巷のささやかな薬局に携わり、新税のことでお客と

の間で不快感を何度も味わったことからすれば当然の答であった。少しばかり社会に目を向けるようになった息子は、寝た子も起さんばかりにマスキの報道に印象づけられたらしく、参院選での野党圧勝、そして子供らしく千代田富士の国民栄誉賞授章とのことであった。消費税及びリクルート問題、参院選挙などが引き金となり竹下内閣総辞職、次の宇野首相もその座を譲り、清潔イメージ溢れる海部俊樹

☆昭和四十八年、石油ショックに見舞われる直前に、私はモスクワ、チェコスロバキアを訪れる機会に恵まれた。出発前からヴェールにつつまれ期待したいと思う。憲法学者小林直樹氏の「国民が目覚めたる主権者として票を投ずることが必須の要件だ」という言葉がこの時代になぜか重みを持つ。

☆外国でも地殻変動的な動きがあった。社会主義諸国に連の自由の波が押し寄せる。ベルリンの壁解除、「プラハの春」で冷遇された自由派の

ドブチェク氏の名譽回復、悲しい流血の犠牲を払いながら決行したルーマニアのクーデター等々……。厳密な「自由」の意味は問うまい。それだけの国民は、国境を越えて肉親に会いたかったのであり、もっと豊かな、人間らしい生活への渴望のため、あるいは換言すれば、ぎりぎりの線まで追いつめられて、人間の良心が選択した結果なのかも知れない。

激動の時代の中で

校内幹事 (69回) 柄倉 浩

に、平和と言っている。しかし、人生が航海に例えられ、時には嵐に見舞われるように、社会も激動を迎えねばならぬ時もある。これから、中産階級が社会の主導権を握っていく時代に、なるだろうと思われるが、私たちは、テレビの娯楽番組にどっぷり漬かった一億総白痴化時代から一億総評論家の時代を経て、バランス感覚を保ちながら、熟成した良心を求めて行かねばならないのではないかと思う。

☆昭和四十八年、石油ショックに見舞われる直前に、私はモスクワ、チェコスロバキアを訪れる機会に恵まれた。出発前からヴェールにつつまれ期待したいと思う。憲法学者小林直樹氏の「国民が目覚めたる主権者として票を投ずることが必須の要件だ」という言葉がこの時代になぜか重みを持つ。

☆外国でも地殻変動的な動きがあった。社会主義諸国に連の自由の波が押し寄せる。ベルリンの壁解除、「プラハの春」で冷遇された自由派の

ドブチェク氏の名譽回復、悲しい流血の犠牲を払いながら決行したルーマニアのクーデター等々……。厳密な「自由」の意味は問うまい。それだけの国民は、国境を越えて肉親に会いたかったのであり、もっと豊かな、人間らしい生活への渴望のため、あるいは換言すれば、ぎりぎりの線まで追いつめられて、人間の良心が選択した結果なのかも知れない。



河井継之助への思い入れ

42回(昭和10年) 高橋 宏

戊辰・長岡戦争の主役、河井継之助については、大佛次郎が「天皇の世紀」第10巻「金城自壊」で、そして司馬遼太郎が「峠」で、それぞれ尋常一通りならぬ最大級の愛情を注ぎ、愛惜の念をもって語り継いでいる。彼らをそう

いう気持ちに駆り立てた要因は一体何だったのだろうか。これらの二者を読んだ後の感銘が非常に強く大きかっただけに、私の甚だ「幼稚」な疑問はその後約二十年間続き、その間自分なりに反覆して自問自答を繰り返していた。私の記憶では、幼年から少年期に至る期間に、こういう話の断片さえ聞いたことはなかったと思う。現在新幹線なら二十

分余りであろうか、新潟と長岡間の直線距離そのものは昔も今もかわらない。昔もその時代なりの相対的感覚で言えば、決して遠い距離関係ではなかったと思う。

その近い新潟市の庶民の家庭で冬の夜話に、あるいは地元新聞(当時二紙)紙上に「戊辰余話」とでもいう形で、この河井継之助についての話が

補給機能ならびにその背後・周辺の各要地との陸上交通の便に關して、その帰趨に重大な関心を寄せていた。港とし

ての機能に幾つかの制約はあったが、洋式武器の輸送・販売に適した日本海側唯一の窓口として、米沢藩が多量に買付け、その中から会津、仙台藩その他へ、かなりの数量の武器類が送られたことも、一再ならずあった。それだけに、河井継之助は、新潟港が政府軍の占拠するところとなるのを、早い時期から恐れていたという。政府軍側の兵員、武器弾薬、食糧衣類等の補給が、ここを利用して行われた場合

の重大影響を強く警戒したのが、洋式武器の輸送・販売に適した日本海側唯一の窓口として、米沢藩が多量に買付け、その中から会津、仙台藩その他へ、かなりの数量の武器類が送られたことも、一再ならずあった。それだけに、河井継之助は、新潟港が政府軍の占拠するところとなるのを、早い時期から恐れていたという。政府軍側の兵員、武器弾薬、食糧衣類等の補給が、ここを利用して行われた場合

の重大影響を強く警戒したのが、洋式武器の輸送・販売に適した日本海側唯一の窓口として、米沢藩が多量に買付け、その中から会津、仙台藩その他へ、かなりの数量の武器類が送られたことも、一再ならずあった。それだけに、河井継之助は、新潟港が政府軍の占拠するところとなるのを、早い時期から恐れていたという。政府軍側の兵員、武器弾薬、食糧衣類等の補給が、ここを利用して行われた場合

の重大影響を強く警戒したのが、洋式武器の輸送・販売に適した日本海側唯一の窓口として、米沢藩が多量に買付け、その中から会津、仙台藩その他へ、かなりの数量の武器類が送られたことも、一再ならずあった。それだけに、河井継之助は、新潟港が政府軍の占拠するところとなるのを、早い時期から恐れていたという。政府軍側の兵員、武器弾薬、食糧衣類等の補給が、ここを利用して行われた場合

随想

わが新中での青春

44回 田宮芳夫

古くからの青山同窓会会報をめぐると、いろいろな回顧がにじんでいる。先生のこと、同期のこと、運動部のことなど多彩にわたっている。

新潟中学校に昭和七年四月に入學し、同十二年三月に卒業した。一学年五クラスで一クラス五十名であった。一番近い小学校から入ったのであるが中学校の中の模様などとはわからなかった。全県一区の入學試験で、激戦の中

で入學でき感激一杯であった。一年の二学期から成績順に機を並ばされ、二年からは一組は成績一番から五十番まで

結果は次のとおりである。一、大正末年から昭和十年代まで(私の小・中学生期に当る)の時代の風潮によるところ多大のせい。二、郷土人としての「長岡人」と「新潟人」との氣質の差というようなものがあつたのではない。

田宮らと出場した。決勝で敗れ去ったが、相手校は卒業生をメンバーとしていたことが判り、その学校は優勝旗を取り上げられたという。後年先輩が全部制覇をした。学期試験中の練習、関屋ダングの汁粉、寒けいこ等楽しい或は厭しい憶い出が多い。

定期的な慨嘆演説なる行動が五年生によって下級生に対して行なわれた。校庭に横列に並べられ、校外外における態度等に難くせをつけられ、がなられ、手も下されたが、四年生が一番目につけられていたようである。五年生は自分の部の者はかばっていた。先生立合いの許でこの行事が行われた。試合に敗れると裏山砂丘で夕日を眺めながら敗戦歌を歌う。敗れたのは応援が駄目だからと慨嘆である。いまの学校では考えられない

ことであるが、生徒による内外の暴力はなかったようである。のびのびしていた感じであった。

よく担任主任の先生のお宅に誘い合せてお尋ねした。お菓子が出るのである。生徒を引きつける先生であった。生物の先生からは温室で園芸作業を教わったが、また精神訓話も頂戴した。現在緑が好きであり、緑化に心を注いでいるのも先生の御指導の賜物である。数学を明快に楽しく教えて下さった先生がおられ

た。ただあの一組制は卒業して社会人になってみると感心しない。一組以外の者が世に活躍しているようである。回顧は大切にしておきたい。(終)

編入され、他の組でも机は成績順とされた。毎学期机ととも移動するので、クラスメートの成績の上り下りはお互によくわかった。こんどは二十番以内に、次は十番以内に席を置かねばと目ざした。二年から五年まで席を一組に置いたが、緊張はつづいた。

青山同窓会収支決算書・収支予算書

収入の部 (自昭和63年4月1日 自平成元年4月1日 至平成元3月31日 至平成2年3月31日)

科目	63年度決算額	元年度予算額
繰越金	395,842	466,000
入会金	1,267,000	1,270,000
会費	3,770,000	3,500,000
雑収入	22,236	10,000
合計	5,455,978	5,246,000

支出の部

科目	63年度決算額	元年度予算額
人件費	2,853,380	2,850,000
通信費	588,900	620,000
印刷費	97,000	100,000
慶弔費	63,650	75,000
会報印刷費	471,000	430,000
会議費	248,105	300,000
卒業生記念品代	170,800	180,000
青陵祭補助	80,000	80,000
通信制補助	232,500	230,000
退職積立金	100,000	100,000
諸費	3,900	11,000
予備費	80,000	270,000
合計	4,989,235	5,246,000

収支差引残高 466,743円(次年度繰越)

平成元年4月25日

上記の通り相違ないことを確認致します。

監事 福山 健
監事 早福 卓

世界中を震撼させ、また世界各国から非難を浴びた、天安門広場の学生及び市民に対する虐殺事件で、思い出されるのは、一九〇五年一月のクレムリン宮殿前に、ガボン神父率いる一般大衆で構成された宗教団体のロシア皇帝に対する請願群衆に対して行われた、銃弾と銃剣による殺戮である。

当時のロシアは各地に革命集団が統出していた時代であり、請願群衆は革命集団ではないにも拘らず、疑心暗鬼にかられたか、血迷ったか、皇帝の軍隊が演じた虐殺は、歴史上同じく「血の日曜日」と呼ばれ、ロシア革命史上特筆される事件である。

その後一〇余年を経て帝制ロシアが倒れ、皇帝ニコライ二世及びその一族のロマノフ王朝の悉くが断頭台の露と消える遠因ともなっている。

奇しくも同じく「血の日曜日」の名称で呼ばれる六月四日の天安門虐殺事件と実に良く似ている。

帝制と共産国家との相違があるとは言え、何れも独裁専制であり、何れも民衆の声を耳を傾けることなく一方的に殺戮、弾圧が加えられたことである。

この数年間度々訪中して得た感じでは、私は決して首脳

部の権力闘争のみとはいえない、若し権力闘争であるならば、一般学生、大衆には無縁のことであり、デモにまで発展することはなかったと思う。

原因は色々あると思うが、私なりの考えで三つあると思う。その一つは、中国は負しながら二〇年間物価の上昇はなく、一般大衆の生活



感だと思ふ、中国語で「走後門児(ソウフォーメル)」という言葉があり、直訳すると裏口を探せと言う意味だが、正面から事を運ぼうとしても中々旨く行かない、従ってコネを使って裏口からということだが、裏口からだると必ず賄賂が伴う、極言すれば、現在の共産官僚の殆ど全部がドックブリとその中につかっている。

は極めて安定した状態が続いてきたが、一、二年前より徐々にインフレが進み20%、50%の物価高となり人民の生活を圧迫し年々苦しくなる一方で、それに對し政府は何らの施策を講じようとはせず怨嗟の声を國中から挙げていた現状で一般民衆の不満から発生したものでないだろうか。

もう一つの因は、腐敗せる官僚、汚吏に対する批判、反

感だと思ふ、中国語で「走後門児(ソウフォーメル)」という言葉があり、直訳すると裏口を探せと言う意味だが、正面から事を運ぼうとしても中々旨く行かない、従ってコネを使って裏口からということだが、裏口からだると必ず賄賂が伴う、極言すれば、現在の共産官僚の殆ど全部がドックブリとその中につかっている。

幹部が掌握しているが、この管理者が正規の流通ルートを通さずヤミ価格で横流ししてフトコロを肥やしている。

例えば、煙草を例に取ると、日本の専売公社の局長、部長ネを使って裏口からということだが、裏口からだると必ず賄賂が伴う、極言すれば、現在の共産官僚の殆ど全部がドックブリとその中につかっている。

中国

六・四 血の日曜日

44回 水野清之助

「建つ」と言われる程一種の賄賂収入が公然と認められていた。しかも官僚として潤うのは本人だけでなく、その一族にも利益が及び、又一族を適当な官職に登用することが当然とされておることが千年以前からの風習で、社会もそれを認めてきた。官僚が私腹ばかり肥やしている実情を小説化した李伯元の「官場現形記」、魯迅の「老残遊記」に如実に書かれている。

中国は共産国家だから全ての企業が国営であり、あらゆる物資の生産、販売は共産党

げると、脳外科の医師と床屋の職人の収入が同じか又むしろ後者の方が良いという実情で同じ頭を対象して内部の外科手術と外部の散髪が同等の待遇とは、日本では考えられない実情である。従って大学の教授等は月給だけでは食えないので、一様にアルバイトをしている。

大学教授のアルバイトと言ふと私達は、講演料とか、著述とかを連想するが、とんでもない彼等のアルバイトは、露店商である。

エリート集団である学生にとつて幻滅であり、自分達の将来に対し全く希望がもてないということが、今回の民主化要求として爆発したのではないだろうか。だから一度海外にでた者は、帰ろうとしないし又、出国熱をおおっている実情である。

第三の因として知識階級に対する冷遇である。文化大革命時毛沢東は徹底的にインテリ階級を弾圧した影響が未だに尾を引いている。一例をあげると、脳外科の医師と床屋の職人の収入が同じか又むしろ後者の方が良いという実情で同じ頭を対象して内部の外科手術と外部の散髪が同等の待遇とは、日本では考えられない実情である。従って大学の教授等は月給だけでは食えないので、一様にアルバイトをしている。

中国

六・四 血の日曜日

44回 水野清之助

「建つ」と言われる程一種の賄賂収入が公然と認められていた。しかも官僚として潤うのは本人だけでなく、その一族にも利益が及び、又一族を適当な官職に登用することが当然とされておることが千年以前からの風習で、社会もそれを認めてきた。官僚が私腹ばかり肥やしている実情を小説化した李伯元の「官場現形記」、魯迅の「老残遊記」に如実に書かれている。

中国は共産国家だから全ての企業が国営であり、あらゆる物資の生産、販売は共産党

げると、脳外科の医師と床屋の職人の収入が同じか又むしろ後者の方が良いという実情で同じ頭を対象して内部の外科手術と外部の散髪が同等の待遇とは、日本では考えられない実情である。従って大学の教授等は月給だけでは食えないので、一様にアルバイトをしている。

大学教授のアルバイトと言ふと私達は、講演料とか、著述とかを連想するが、とんでもない彼等のアルバイトは、露店商である。

一九一一年辛亥革命時孫文は、三民主義を唱えたと即ち民族、民権、民生主義である。そのうち民権主義が今言う主権在民に当り、議会政治による国政運営を理想としたもので、民主主義に通ずる。併し孫文の意志を継いだ蔣介石も毛沢東も、革命の創業者と

五千年は全て独裁である。世界の民主国の多くは先進国であり、国民一般の教育水準も高く、生活も豊かであり、従って民度も高い。併し現在の中国全般は未だ後進性から脱し切れず、又国民性から来る公德心と民度の低さ及び十億の八〇％が農民であり、然も文盲率三〇％という中国の現状から民主の意識を解する国民が果たしてどの位いるのだろうか？

中国

六・四 血の日曜日

44回 水野清之助

「建つ」と言われる程一種の賄賂収入が公然と認められていた。しかも官僚として潤うのは本人だけでなく、その一族にも利益が及び、又一族を適当な官職に登用することが当然とされておることが千年以前からの風習で、社会もそれを認めてきた。官僚が私腹ばかり肥やしている実情を小説化した李伯元の「官場現形記」、魯迅の「老残遊記」に如実に書かれている。

中国は共産国家だから全ての企業が国営であり、あらゆる物資の生産、販売は共産党

げると、脳外科の医師と床屋の職人の収入が同じか又むしろ後者の方が良いという実情で同じ頭を対象して内部の外科手術と外部の散髪が同等の待遇とは、日本では考えられない実情である。従って大学の教授等は月給だけでは食えないので、一様にアルバイトをしている。

大学教授のアルバイトと言ふと私達は、講演料とか、著述とかを連想するが、とんでもない彼等のアルバイトは、露店商である。

しての孫文を中国最高の功勞者として、台湾では国父記念館、中国では中山陵など造つてその偉業を讃えているが、このことは「六・四事件」として、永久に中国史上に残り、孫文が理想とした三民主義は、台湾でも中国でも実現されず一党独裁の体制で民主主義とは程遠い。

果たして、今後中国はどう変わるのか、隣邦中国国民に對し、幸あれと祈るのみ……。写真とは本文とは関係なく本校職員有志のツアーです。

中国

六・四 血の日曜日

44回 水野清之助

「建つ」と言われる程一種の賄賂収入が公然と認められていた。しかも官僚として潤うのは本人だけでなく、その一族にも利益が及び、又一族を適当な官職に登用することが当然とされておることが千年以前からの風習で、社会もそれを認めてきた。官僚が私腹ばかり肥やしている実情を小説化した李伯元の「官場現形記」、魯迅の「老残遊記」に如実に書かれている。

中国は共産国家だから全ての企業が国営であり、あらゆる物資の生産、販売は共産党

げると、脳外科の医師と床屋の職人の収入が同じか又むしろ後者の方が良いという実情で同じ頭を対象して内部の外科手術と外部の散髪が同等の待遇とは、日本では考えられない実情である。従って大学の教授等は月給だけでは食えないので、一様にアルバイトをしている。

大学教授のアルバイトと言ふと私達は、講演料とか、著述とかを連想するが、とんでもない彼等のアルバイトは、露店商である。

学生達の民主化、言論の自由等の要求に対し中共政権は危機を感じたのではないだろうか、結果は無残な、悲しい事実のみ残り、隣邦中国国民に對し同情を禁じ得ないが、このことは「六・四事件」として、永久に中国史上に残り、孫文が理想とした三民主義は、台湾でも中国でも実現されず一党独裁の体制で民主主義とは程遠い。

果たして、今後中国はどう変わるのか、隣邦中国国民に對し、幸あれと祈るのみ……。写真とは本文とは関係なく本校職員有志のツアーです。

中国

六・四 血の日曜日

44回 水野清之助

「建つ」と言われる程一種の賄賂収入が公然と認められていた。しかも官僚として潤うのは本人だけでなく、その一族にも利益が及び、又一族を適当な官職に登用することが当然とされておることが千年以前からの風習で、社会もそれを認めてきた。官僚が私腹ばかり肥やしている実情を小説化した李伯元の「官場現形記」、魯迅の「老残遊記」に如実に書かれている。

中国は共産国家だから全ての企業が国営であり、あらゆる物資の生産、販売は共産党

げると、脳外科の医師と床屋の職人の収入が同じか又むしろ後者の方が良いという実情で同じ頭を対象して内部の外科手術と外部の散髪が同等の待遇とは、日本では考えられない実情である。従って大学の教授等は月給だけでは食えないので、一様にアルバイトをしている。

大学教授のアルバイトと言ふと私達は、講演料とか、著述とかを連想するが、とんでもない彼等のアルバイトは、露店商である。

三六会卒業六十年

新潟で記念クラス会



井 功、風間忠雄、植木市松、丸岡 寛、前田節雄、同 夫、加藤正弘、今井二雄、高木利夫

昭和四年卒業のわれ等三十六回生は、平成元年が卒業六十年にあたるので、去る十月十八日蒲原郡岩室村間瀬海岸料亭喜左エ門にて記念クラス会を開催。当日の参会者十七名、東京方面から三名、仙台から一名の参加であった。快晴に恵まれた一行は、料亭出迎えのマイクロバスでシーサイドラインの風景を賞でつつか会場に到着、開会前に各人の現況報告と、故君健男氏をはじめ前回以降逝去された十数氏の冥福を祈る為黙禱をささげ開宴。杯をかたむけつつ話題は在校時代に戻りなごやかに歓談した。

最後に植木市松応援団長の首頭で、校歌、応援歌の斉唱万歳をとなえ次回を約して散会した。

出席者 金井宜夫、樋口 均、田中 武、加賀田二四夫、河辺昌伍、宮島美代吉、田巻良一、田崎元六、倉田 亨、広

東京でも記念会

平成元年十二月五日。於経団連会館「雪庵」にて開催。齊藤英四郎会長の英サッチャー首相より英語が旨いと賞られた話など。明治の最終年に生れ、明治憲法がよく機能しなくなったと言われる、大正・昭和を生き抜き、その間、マルクス主義を信奉しながら獄死した塚田梅三、軍神とされた竹の内誠次など多くの友を失いながら、昭和天皇逝去の頃は、来年半ばまでといわ



れた景気も共産国家の革命が続いてまた中国東ドイツに強い齊藤会長の出席が来たことすべての級友が健康を保持するよう切望された。

(監事、関 昇)

(出席者) 安藤公平、今井二

卒業二十五周年の集い

72回植木和美 (旧姓阿部)

平成元年八月十二日、七十二期の同期会が市内のシルバートホテルで開かれた。卒業は二十五年前、花のセブンティーン時代があったのだ。最初、懐かしい六人の先生方(阿部正先生、野呂重行先生、星智信先生、宮地正樹先生、渡辺健夫先生、渡辺秀英先生)が、お変わりなくお元気にステーションに立たれると、かつてのマドンナ達から花束贈呈が行なわれ、会場は一気に華やいだ雰囲気包まれた。次に、当時八ミリの趣味としていた仲間がいて、青陵祭の貴重なフィルムが写しだされると、時は完全にタイムスリップしていった。「二年は何組? 二年は? じゃあ、どこで一緒だったんだらう。」顔は笑っているが話したこともない人の方がむしろ多いかも知れぬ。今なら何か話せる。話してみたい。

雄、植木正平、宇佐美博、風間政一、加藤正弘、川上隆、河辺昌伍、久保文直、栗山甚之助、古岡朔郎、児玉賢雄、齊藤英四郎、関 昇、関根達夫、田中清太郎、水戸良七 (以上)

あれから25年 青陵健児ここにあり 新潟高校72期同期会



必ず、どこかで、すれ違い、どこかでふれ合ったはずだから、この会は、お盆時に開かれたため、県外組が五十三名にもなり、総勢百二十三名、三割強の参加であった。うち、

女性参加は二十九名であった。男性も女性も、仕事社会では脂が乗っている時期ととれた。一方、家庭では、子育てもほ

た故か、学力の点では迫りに欠ける学生と言われ続けた。が、文化・スポーツ面の自慢は、いっぱいある。全国優勝のレスリングやラグビーなど、各部が大活躍したことは新潟高校の歴史に残っている事実だ。

この二十五周年を機に、また、チームワークで同期をやっていくような予感がある七十二年生である。青陵健児ここにあり。青陵健児これからもあり。元気で、また会いましょう。



67回卒業30周年 記念寄附金を母校に

67回卒業生は昨年六月十日に卒業30周年記念同期会を湯田上温泉で開催した。会場に募った参加者からのものと、欠席者からも送られて来た寄附金をとりまとめ、後日新潟在住の幹事が、母校を訪問。校長室で宮地校長に手渡した。

在京新中三五会

秋の集い

在京新中三五会は、去る平成元年11月15日に、銀座ライオンピアールの3階「安具丸山求蔵、山名栄一（令夫人）、渡辺秋策。（文責 尾崎）」で一同相会して昼餐を共にし、歓談の時を過ごし、最後に校歌を合唱する。今回は、卒業以来初めての岡四亥君出席、所用欠席の籠島秀雄君以外、全員の集りで、懐旧談に花が咲き、次回を来春開催を約して午後3時に散会。

出席者
入沢健三、小林商司、岡四亥、尾崎三夫、熊倉雄三、近藤



乾杯。ゆつくり飲みまた語り、秋の一日を終わる。
(本日の出席者)
中村 健、鈴木秀夫、小林清太郎、石高信司、山下八郎、岡崎清彦、佐藤平八、川崎孝治、皆川竹次郎、福山 健。

日東京在住の清野君が心不全で急逝した。君は新中時代は剣道部主将として活躍し、早大剣道部でも学院、学部を通して明るい性格で人気者だった。腰の疾患でここ6年間は、自宅静養中、御冥福を祈ります。

今年鬼籍に入ったのは、藤田儀資君と茅ヶ崎の小原栄二君の二人である。かつて毎年新潟中学、新潟商業、長岡中学、長岡商業の4校で野球のリーグ戦が行われ、若人の熱血を湧かせた。藤田君は四年生、五年生の時エースとして活躍した。彼の颯爽とした英姿は今でも臉の裡に残っている。両君のご冥福を切にお祈りする。

- ◎秋期県大会
水泳男40M R ③桑原・木村・菲沢・赤沢 ラグビー①女フル①今岡祐子②桑原恵子
③鈴木陽子④小林容子
◎BSN県大会 男個人軽重量級①伊藤肇
◎秋期新潟県高等学校漕艇大会
会男シングルスカル①佐藤勉
男ナックルフォア②男シングルフォア③

ンテスト信越①全国⑧
囲碁 第13回全国高等学校囲碁選手杯大会新潟県大会 団体女①(全開大会へ出場)
園芸 新潟県園芸部コンクールの規定演技①新潟高校チーム農業部門②石田友信

42回 恒例の同期会

42回 菊地 勲

県内のあちらこちらから紅葉の便りが聞かれるようになって、同期会の準備をせざるを得ない。今年も福田、中野両幹事が入院の破目になった。中野君は春頃からずっと意識不明で家族の方の心労が思いやられる。福田君は大したことがなく入院直前まで会の案内の方を担当してくれたので助かった。

三九会秋の例会

39回 福山 健

10月27日よい日和、新潟駅東急イン前に見馴れた顔が集まってくる。定刻小型マイクロバスにて出発。ホームグラウンドは咲花温泉の左取館、先ずワンカップ一本ずつ配る。やがて水原をすぎ、安田を過ぎて、阿賀野川が大きく姿を見せる。橋を渡って宿へ着く。今日はあまり時期がよすぎるためか小人数だ。川を見渡せる広い座敷に一浴後着席



例年どおり11月11日篠田旅館で開催された。いつも乍ら常連の出席は心強く、幹事の支えになっていく。皆勤賞精勤賞を出さねばならないだろう。東京から丸山平次君、田中正吾君、横浜からは常連の鳥羽正隆君が駆けつけてくれた。僻地診療でテレビ放映に



なった守門村の高橋吉郎君長らく病氣療養していた小野隆一君、新津から金沢裕君が久しぶりに元気な顔を見せ、バリエイに富んだ顔振りが揃った。総勢18名。

- ◎日本・中国ジュニア親睦陸上競技大会男走幅跳①志田哲也
◎水泳 国体予選 少年男A 50自由形②赤沢大介、男100バタフライ④非沢敏昌、男400M⑤木村幸広 少年男100背③桑原大輔20背④桑原大輔 少年女B 100背⑤松原直子
バドミントン 国体予選 男S②久代恵介 県ジュニア大会男S②久代恵介
ラグビー NHK杯②

あけましておめでとうございます。年二回発行の会報、会員を結ぶよすがになればと編集に心しております。今号では長文の寄稿が多く割付に苦労いたしました。限られたスペースですので今後ともご寄稿に際しては千字千二百字位を見当をお願いしたいと思っております。内容的に同窓会・クラス会・各部の集まり等、会員消息にかかわるものから優先掲載したいと思っておりますので紙面の都合で見合わせの場合はお許し下さい。

後輩の活躍

編集後記

阿部辰一君の音頭で玲瓏の天の校歌を合唱し、お互いの健康を祝し、再会を期して散会した。

懐旧談に花が咲き、又高山雄次郎君のハモニカの独奏あり会は盛り上った。

物理 アマチュア無線交信コンテストA L J A コンテスト信越③ワールドデューコ

野での活躍などお知らせ下さい。されは幸いです。

平成二年会員各位のご活躍をお祈りいたします。(石)

画人笠原軻と

その父漁村(共)

60回 小林 智明

「遊方会雑誌」と「紫蘭」

漁村先生の漢詩は、遊方会雑誌に時々見ることが出来るが、その中でも「新潟中学校雑誌十律」や「佐渡日誌」、「村杉坐湯中雜咏」などがまとまって印象的である。雑誌十律は当時の新潟新聞にも寄稿されて、『霞棚引く青山』の情景と、その学び舎を世に喧伝した。

村杉坐湯中雜咏が投稿された遊方会雑誌二十四号(明治四十三年三月発行)には、漁村の外に小金花作(山田穀城、佐渡相川生れ、歌人)の「萬葉詩人の自然観」という論説や、内藤辰露、前田夕暮、小島秋雨、會津八朔郎、山崎秋露の短歌や俳句、詩などの寄稿が見えるが、特筆すべきは、會津八朔郎(八一、七回生)の「南都詠草」という寄稿であろう。これは會津八一が歌人として世に出た処女歌集「南京新唱」(大正十三年、春陽堂)の母胎ともいうべき興味深い寄稿である。紙数の都合で全部ここに紹介する訳にはゆかないが、戊申(明治四十一年)七月南都遊遊にいで立たむとて、「青丹よし奈良の都にありとある御寺御佛ゆきてはや見ん」の歌に始る二十一首の歌と、二首の俳句とが寄稿されている。その中には南京新唱に記載された次の六首と、後年更に鹿鳴集に追加された二首とが見えている。

我妹子が衣掛柳見まくほり

池をめぐりぬ傘さしながら (南京新唱 鹿鳴集)

春日野のみくさ折り敷きぬる鹿の

角さへさやに照る月夜かも ()

秋萩は袖には摺らじ故郷に

行きて示めさん妹もあらなくに ()

古の奈良の宮人今あらば

越の夷と吾をことなきむ (鹿 鳴 集)
あき條の御寺を出で、顧る
生駒が岳に日は落ちむとす (南京新唱 鹿鳴集)

夢にしみえこ若草の山 (鹿 鳴 集)
斑鳩の里の乙女は夜もすがら
きぬはた織れり秋ちかみかも (南京新唱 鹿鳴集)

みとらしの梓の真弓絃はけて
弾きてかへらぬ古あはれ ()

明治三十九年、會津八一は早稲田大学を卒業し、中頸城の板倉村に増村村舎が経営する有恒舎に英語教師として赴任、同村針の宮沢旅館に下宿していた。そのことは、八一と同級の渡辺軻、後輩の軻兄弟にもいち早く伝わっていた。当時の八一は頸城の片田舎で、「酒のまぬ一日もあらず冬こもり」などの句に託して、失恋の傷手を癒やしていたが、「玻璃吟社」という俳句の結社を起したり、一茶の「六番日記」を発見するなど、学芸の研究も怠らなかつた。明治四十一年の八一のこの奈良旅行は、彼の生涯に重大な変化をもたらした旅行であったが、同時に彼の朋友、知人にもいろいろな影響を与へた旅行でもあった。軻もその一人で、この直後の九月に奈良に遊び、斑鳩の地を訪れている。或いは八朔郎の歌を口誦したかも知れない。もともと軻は、それより一年ほど前に美術学校の修学旅行で、奈良や京都の寺院や博物館などに佛像や絵画を巡り見ているので、逆に何らかの影響を八一に与えていたかも知れない。次のような軻の手紙があることから文通が続いていたことは容易に考えられるのである。「：

僕は今日の午後十時の夜行で東京を去り、高田で旧友宮川中尉(惣介、十回生、軻の親友で高田聯隊司令部勤務、第二次大戦中ビルマにて戦死)を訪ねる約束ですが、近けれど八朔大人の御機嫌を伺ふことは出来ないと思ふ。新潟着は八九日頃の予定であります。……これは兄の軻(七回生)や八一の同級

生であった新潟市中野山の渡辺順(元新潟市長渡辺浩太郎(三十回生)氏の父君)に宛てられたものである。

ここで新潟中学校の校友会誌であった「遊方会雑誌」とその前身とみられる「紫蘭」について記してみたい。学校創立より六年、明治三十一年二月に第一号が発行された遊方会雑誌は、「創立以来の会員が演じた活動を紙に筆して進歩発達のようすを後日の参考にする」と、卒業しても消息を通ずることが



高橋 翠 邨

遊方會雜誌 第九號

新潟縣新潟中学校内 遊方會

できるよう、遠く去りし明師良友の高論卓説を録載して定課以外の徳性を涵養し知識を研磨する」などの高邁な理想がその規定に載されていた。誌名は当時の漢文、習字の教師であった高橋茂一郎先生が命名されたもので、論語里仁の「子曰、父母在、不遠遊、遊必有方。」からとられた。「父母在すときは、遠く遊ばず、遊ぶこと必ず方有り。」の方有りとは、方向があること、行く先が明らかであることであろう。さすれば遊方とは、遊ぶ方向、行く先、ということになる。まことに示唆に富んだ命名であったと

いうべきであろう。しかし「入学当初は、遊び方の雑誌と思った。」などとユーモラスに当時を回顧する先輩(創立五十周年記念誌「在校当時の思出」一頁訪問快亮、十一回生、遊方会雑誌編集委員)もおられた。

高橋先生は翠邨と号され、新潟中学校創立以来の先生であった。安政元年、長岡藩の儒者長沢赤城の二男として長岡弓町に生まれた。慶応四年の戊辰の役に、父赤城は会津で戦死。十五歳の翠邨は母と共に長岡をのがれ、中魚沼郡秋山郷深見の長沢慎五郎(赤山と号す)を頼る。赤山は翠邨の祖父赤水の弟で、長崎へ出て海外貿易に発展しようとしたが、国禁にふれると罪に問われ、秋山郷に隠れていた。翠邨はここで赤山に就いて朱子学を学んだ。(渡辺秀英「會津八一の郷像」より)明治七年十日町小学校の校長となり、明治十二年校長を辞して上京、三島毅の二松舎に入學し、後に認められて助教兼兼長となった。明治十三年帰郷して十日町市高山に静雲精舎を開き漢字を教えた。以後、刈羽郡上條義塾、中魚沼郡協立塾義文舎、曹洞宗中學校、北越學館などに教えて明治二十五年、わが新潟中学校の開校により、倫理、漢文、作文、習字の助教論として迎えられ、二十九年に長岡中学校へ転任するまで四年間を教えた。

中学一年生の會津八一に習字を教え、「お前はほかの科目はいいが、習字は甚だよくない。もつと習字をしっかりとやれ、お前ぐらい下手なのは見たことがない」と、涙を浮べて忠告した(安藤更生「書豪會津八一」より)のも、この高橋茂一郎先生であった。

遊方会雑誌の編集は、高学年の中から数人の委員が選ばれてこれに当たった。はじめは談話部の中から委員が選ばれていた。それらの中には、後年名を成した人の名が多く見られる。中でも青木得三、山崎良平、小柳篤二、田中完三などが有名である。

(つづく)

平成元年度青山同窓会会費納入者名簿

(4 月より 12 月 20 日まで納入済のもの)

未納の方は 3 月までに納入下さるようお願い致します。

1 口 1,000 円でできるだけ 2 口以上でお願いします。

(郵便振替口座 新潟 5-4455 青山同窓会)
(第四銀行学校町支店口座 0275210 青山同窓会)

Table listing members and their contributions. Columns include member names (e.g., 治郎, 木村, 石井), amounts (e.g., 18回, 21回), and family names (e.g., 治郎, 木村, 石井). The list is organized by family name and includes various names and their respective contribution details.

